

3
ダビデ
聖徒伝 87

「信仰者の 試練の果てに」

I サムエル記21～23章 逃亡者ダビデ アヒメレクの死

アウトライン

- 0. イントロダクション
～詩篇57篇～
- I. 祭司の町へ 敵地への逃亡 21章
～詩篇56篇～
- II. 祭司の町の虐殺 22章
～詩篇52篇～
- III. まとめと適用
希望はただメシアにある
～詩篇34篇～



ユダの荒野

【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

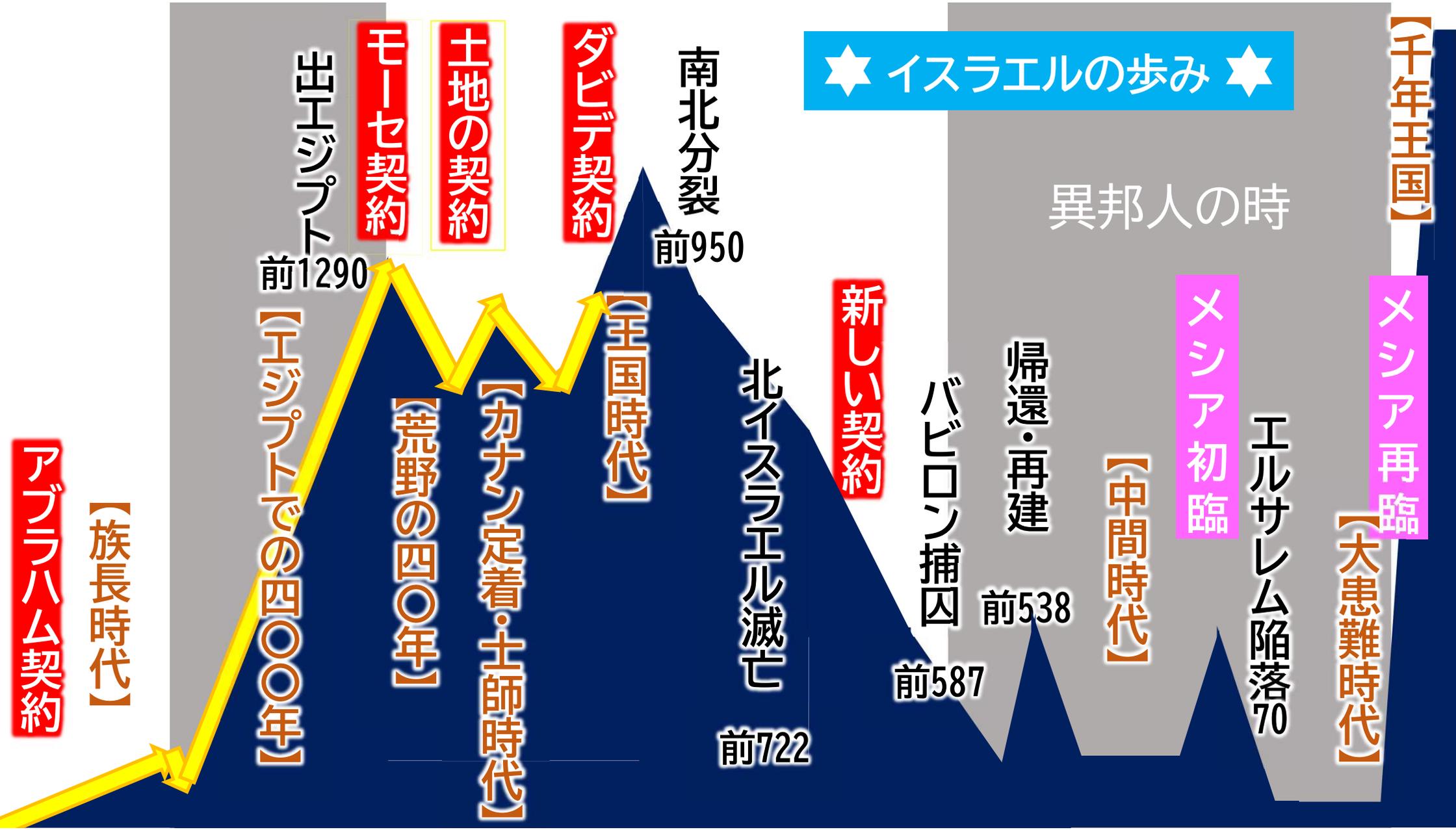
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

サムエル記 第一

士師時代

サムエル

1:1~2:11	サムエルの誕生
2:12~3:21	サムエルの召命
4:1~7:17	奪われた契約の箱
8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

サウル

10:11~11:15	油注ぎ
12:1~25	士師サムエルの民への告別
13:1~15:35	王が重ねた神への背き

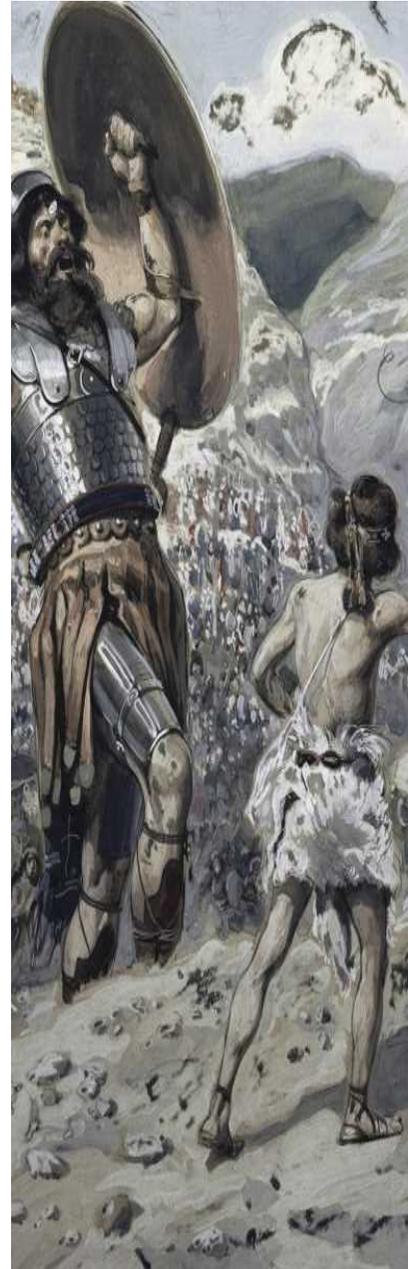
ダビデ

16:1~13	油注ぎ
16:14~23	王宮での奉仕
17:1~58	ゴリヤテとの戦い
18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
27:1~30:31	ペリシテ人の地で
31:1~13	サウルの死



【ダビデの油注ぎ】 I サムエル11～17章

- サウルは、主に背き、子孫に続く王の系譜は断たれた。さらなる背きにより、王権すら剥奪されてしまった。
→ 主の霊はサウルを去り、悪霊に苛まれる日々に。
- 神は、御心に叶った**真実の王**を立てた。それがダビデ。ユダのベツレヘム。エッサイの8番目の子に油注ぎが。
→ この日以来、主の霊はダビデに激しくくださった。
- 当初、豎琴弾きとしてサウルに仕えていたダビデは、ペリシテの巨人ゴリヤテを倒し、兵士として名を挙げた。



【ダビデの逃亡】 I サムエル18～20章

- 「サウルは千を討ち、ダビデは万を討った」
民の歌に、サウルは激怒し、ダビデに殺意を抱いた。
- ダビデを激戦地に送り、娘との結婚に無謀な条件を課したサウルだが、主がダビデを守られた。
- 恐れに捕らわれたサウルは、公然と殺害を口にし、自らの槍でダビデを突き刺そうとするまでに。
- ダビデは、兄弟の契りを交わしたヨナタンと涙の惜別。一人、荒野へ逃れていく。



詩篇59篇 逃亡者となったダビデの歌

～ 序 章 ～

指揮者のために。「滅ぼすな」の調べで。

ダビデによる。ミクナム。

ダビデを殺そうとサウルが人々を遣わし、

彼らがその家の見張りをしたときに。



I. 祭司の町へ 敵地への逃亡 I サムエル記21章

幕屋

【祭司の町ノブ】 I サムエル21:1~2

ダビデはノブの祭司アヒメレク*のところに来た。アヒメレクは震えながら*、ダビデを迎えて言った。「なぜ、お一人で、だれもお供がいないのですか。」

ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王は、あることを命じて、『おまえを遣わし、おまえに命じたことについては、何も人に知らせてはならない』と私に言われました。若い者たちとは、しかじかの場所で落ち合うことにしています。」

*系譜の断絶が預言されたエリの子孫

エリ➡ピネハス➡イ・カボデ➡アヒトブ➡アヒメレク

*事態の異常さから、ダビデの状況を察した？



皆、短命だった?!

【ダビデの求め】 I サムエル21:3~4

「今、お手もとに何かあったら、パン五つでも、ある物を下さい。」

祭司はダビデに答えて言った。「手もとには、普通のパンはありません。ですが、もし若い者たち*が女たちから身を遠ざけているなら、聖別されたパン*があります。」

*数名の従者が同行していた。

「ダビデと供の者たちが空腹になったとき(マタイ21:3)」

*安息日ごとに幕屋で主にささげられた供えのパン。

➡祭司に割り当てられ、聖所で食べた。(レビ24章)



【聖別されたパン】 I サムエル21:5～6

ダビデは祭司に答えて言った。「実際、私が以前戦いに出て行ったときと同じように、女たちは私たちから遠ざけられています。若い者たちのからだは聖別されています。普通の旅でもそうですから、まして今日、彼らのからだは聖別されています。」

祭司は彼に、**聖別されたパン***を与えた。そこには、温かいパンと置き換えるために、その日【主】の前から取り下げられた、臨在のパンしかなかったからである。

***イスラエル12部族を代表する12個の輪型パンが、安息日ごとに聖所の供卓に供えられた。(レビ24:5～9)**



【エドム人ドエグ】 I サムエル21:7

—その日、そこにはサウルのしもべの一人が【主】の前に引き止められていた。その名はドエグ* といい、エドム人* で、サウルの牧者たちの長であった—

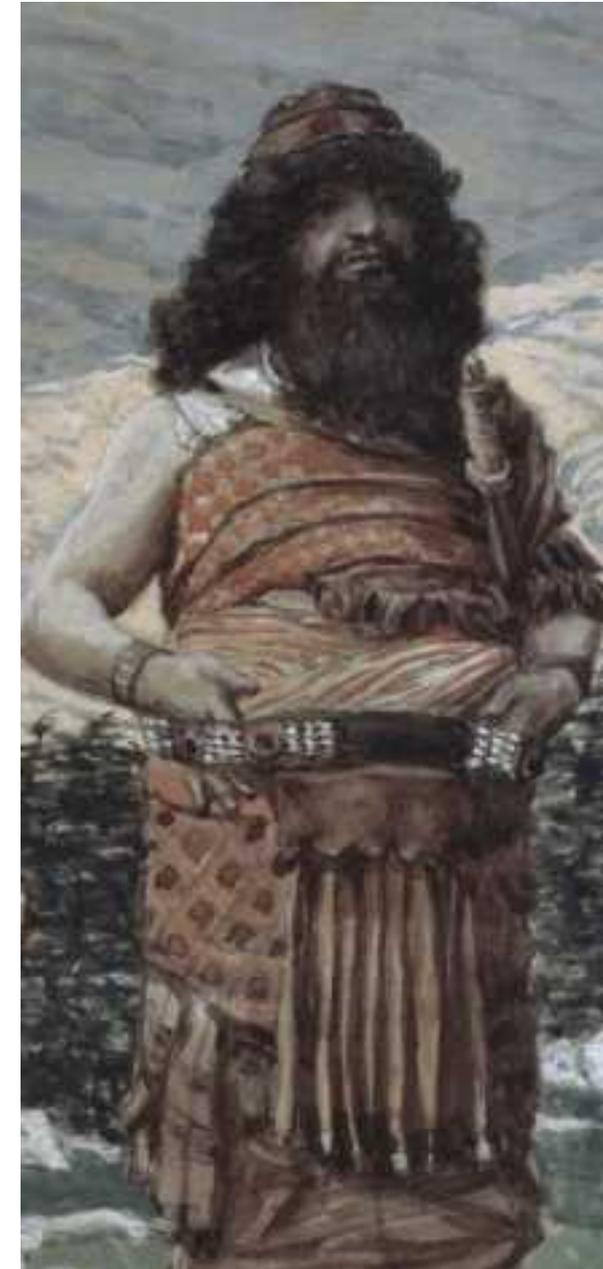
*ドエグ …“恐れ、恐怖”を意味。

*エドム人 …ヤコブの兄エサウの末裔の民族。

➡サウルはエドムと戦い、勝利していた(14:47)

■ドエグは、サウルの奴隷、羊飼いの長だった?!

この後、その名の通り、恐怖をもたらすことに…。

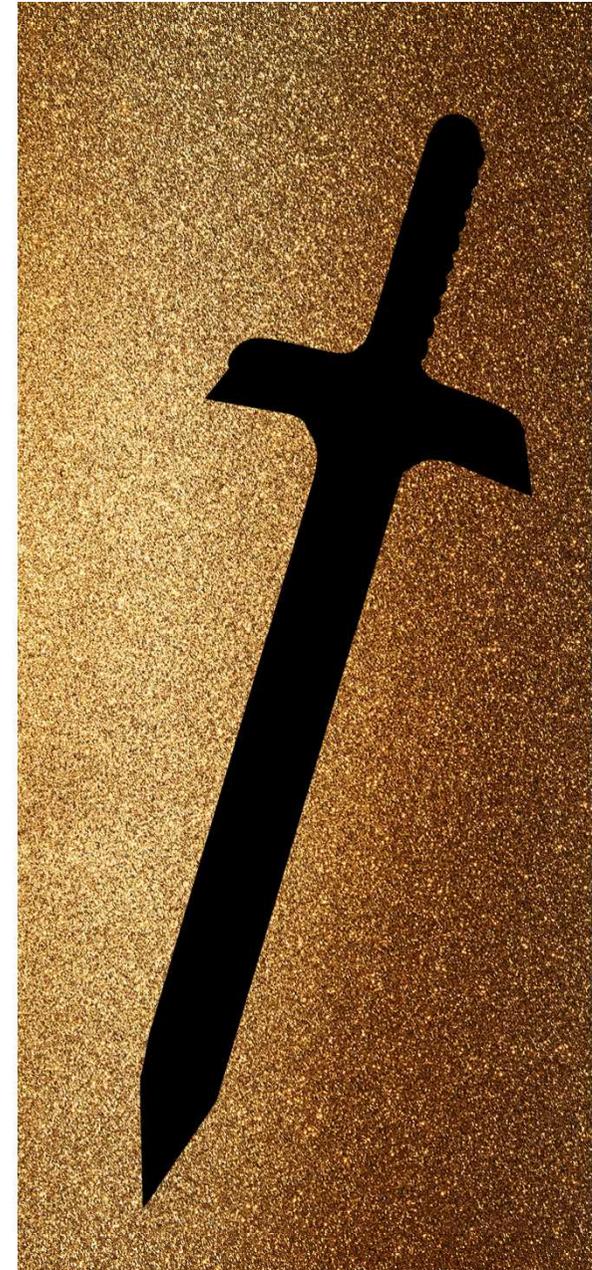


【ゴリアテの剣】 I サムエル21:8～9

ダビデはアヒメレクに言った。「ここには、あなたの手もとに、槍か剣はありませんか。私は自分の剣も武器も持って来なかったのです。王の命令があまりに急だったので。」

祭司は言った。「ご覧ください。あなたがエラの谷で討ち取ったペリシテ人ゴリヤテの剣が、エポデのうしろに布に包んであります。よろしければ、持って行ってください。ここには、それしかありませんから。」

ダビデは言った。「それにまさるものはありません。私に下さい。」



【ペリシテの町ガテへ】 I サムエル21:10

ダビデはその日、ただちにサウルから逃れ、ガテ*の王アキシュのところに来た。

アキシュの家来たちはアキシュに言った。「この人は、かの地の王ダビデではありませんか。皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と言って歌っていたのは、この人のことではありませんか。」

ダビデは、このことばを気にして、ガテの王アキシュを非常に恐れた。

*ペリシテの主要な都市の一つ。

➡強奪された神の箱が置かれ、災いを招いたことも。

■主への恐れがあるガテなら安全と考えた？



【ダビデの必死の演技】 I サムエル21:13~15

ダビデは彼らの前でおかしくなったかのようにふるまい、捕らえられて気が変になったふりをした。彼は門の扉に傷をつけたり、ひげによだれを垂らしたりした。

アキシユは家来たちに言った。「おい、おまえたちも見ているように、この男は気がふれている。なぜ、私のところに連れて来たのか。私のところに気がふれた者が不足しているとでもいうのか。私の前で気がふれているのを見せるために、この男を連れて来るとは。この男を私の家に入れようとでもいうのか。」

■ダビデは、解放され、難を逃れた。



詩篇56篇 ダビデの歌

ペリシテ人の町ガテで捕らえられたダビデが、
ガテの王(アビメレク)、キシユの前で
頭がおかしくなったかのようにふるまい、
そこを逃れた時に歌った歌。



Ⅱ. 祭司の町の虐殺

I サムエル記22章

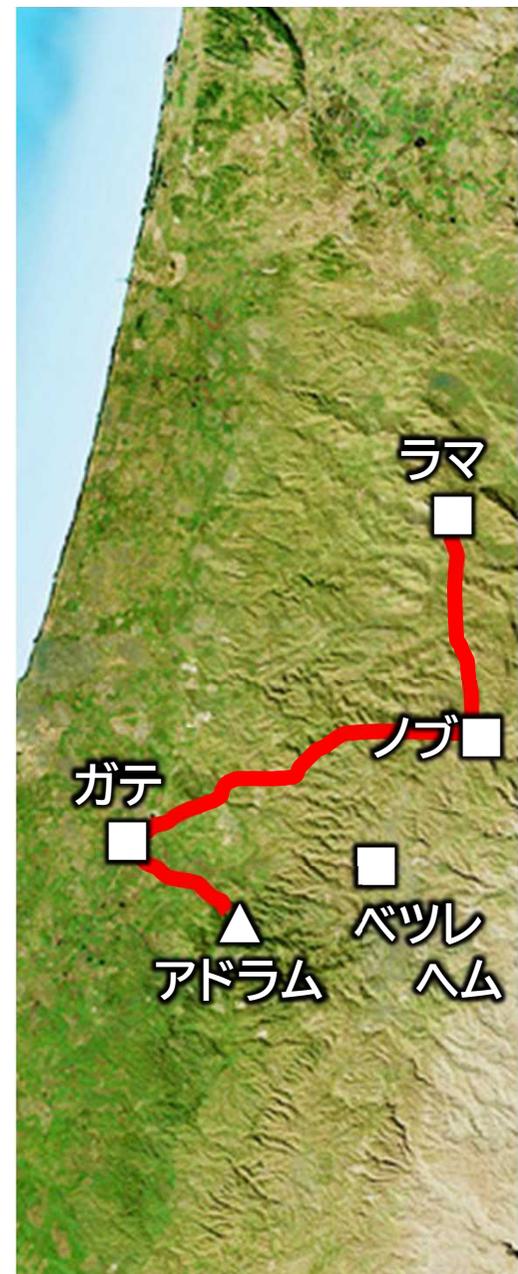
ユダの山地・洞窟

【アドラムの洞穴で】 I サムエル22:1~2

ダビデはそこを去って、アドラムの洞穴に避難した。彼の兄弟たちや父の家の者はみな、これを聞いてダビデのところへと下って来た。

そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに集まって来たので、ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼とともにいるようになった。

■ 家族、親族、アウトローの一団が、ダビデの仲間になった。





ベル洞窟

【モアブの地へ】 I サムエル22:3~5

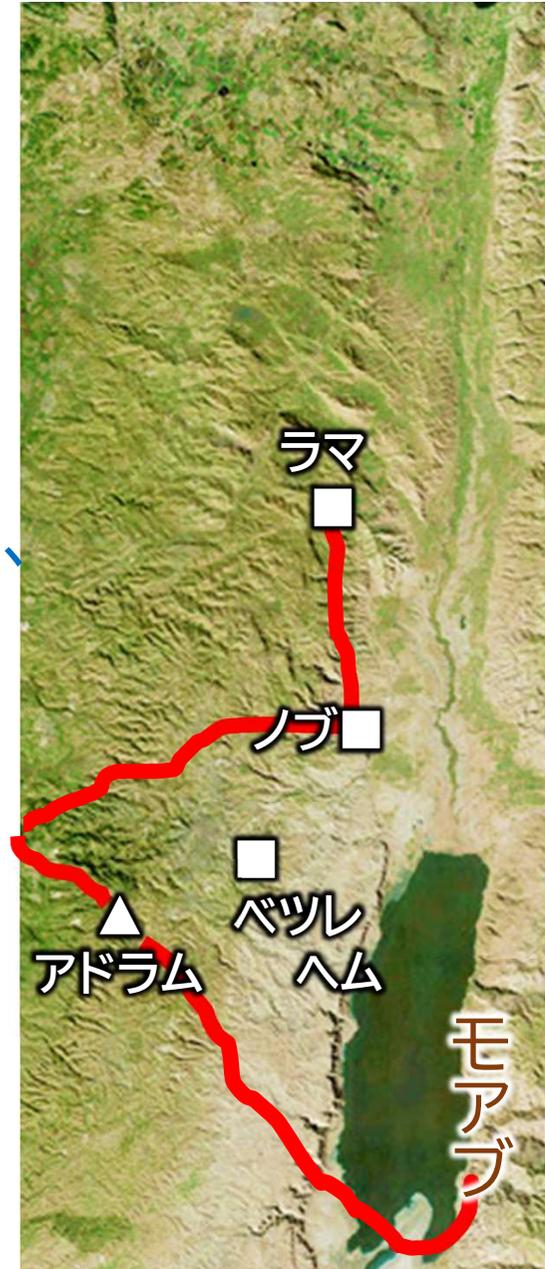
ダビデはそこからモアブ*のミツパに行き、モアブの王に言った。「神が私にどのようなことをされるか分かるまで、どうか、父と母をあなたがたと一緒に住まわせてください。」

ダビデは両親をモアブの王の前に連れて来た。彼らは、ダビデが要害にいる間、王のもとに住んだ。

預言者ガド*はダビデに言った。「この要害にとどまっていなくて、さあ、ユダの地に帰りなさい。」それで、ダビデはそこを出て、ハレテの森へやって来た。

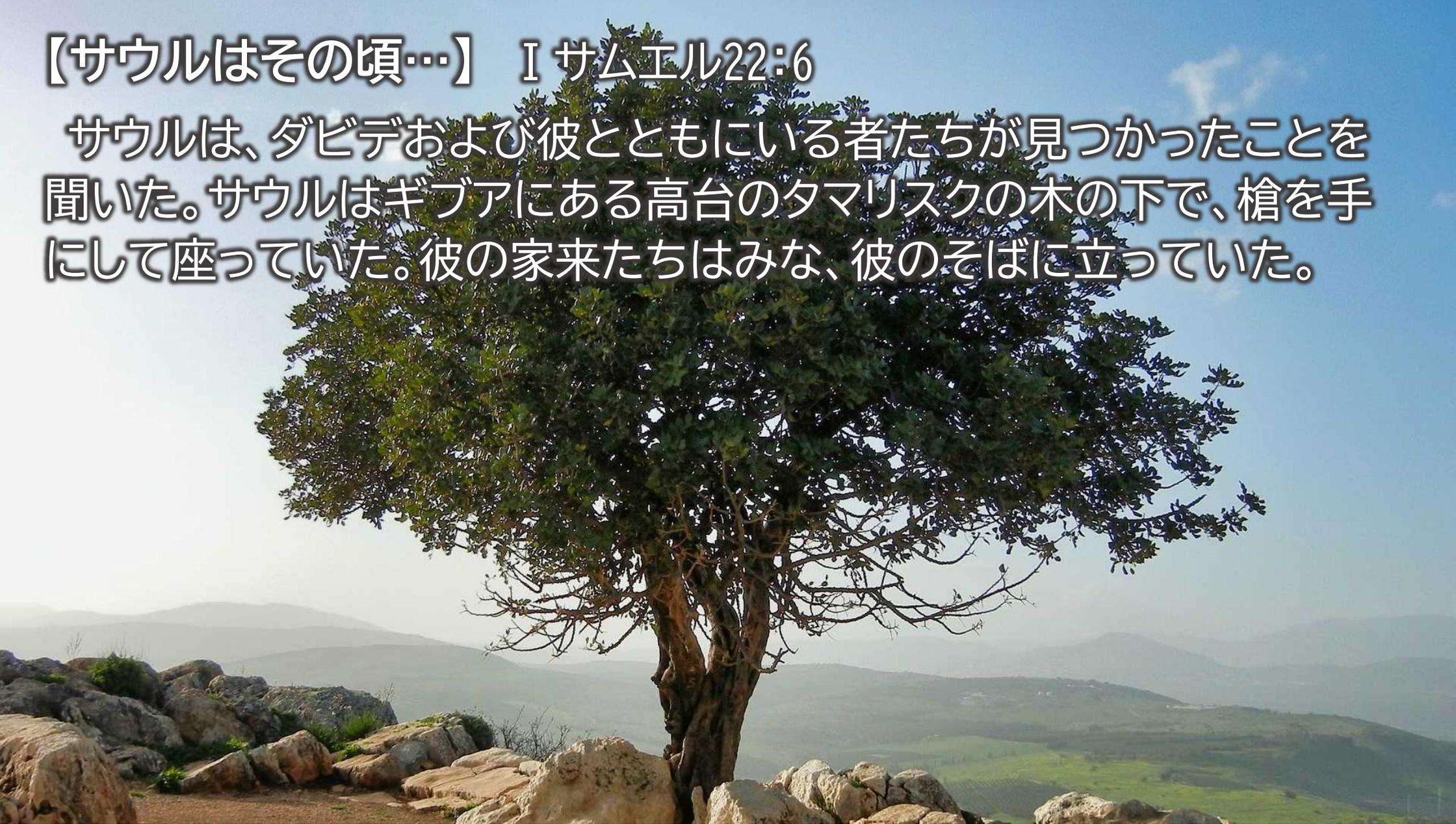
*ダビデの曾祖母がモアブ人ルツ。

*ヨルダン川東岸に相続地を持つガド族の預言者か？



【サウルはその頃…】 I サムエル22:6

サウルは、ダビデおよび彼とともにいる者たちが見つかったことを聞いた。サウルはギブアにある高台のタマリスクの木の下で、槍を手にして座っていた。彼の家来たちはみな、彼のそばに立っていた。



【捕らわれたサウルの心】 I サムエル22:7~8

サウルは、そばに立っている家来たちに言った。
「聞け、ベニヤミン人。エッサイの子が、おまえたち全員に
畑やぶどう畑をくれたり、おまえたち全員を千人隊長、
百人隊長の長にしたりするだろうか。」

それなのに、おまえたちはみな私に謀反を企てている。
息子がエッサイの子と契約を結んでも、だれも私の耳に
入れない。おまえたちのだれも、私のことを思って心を痛
めることをせず、今日のように、息子が私のしもべを私に
逆らわせて、待ち伏せさせても、* 私の耳に入れない。」

*被害妄想のかたまりのサウロ。かたくなにされた心。



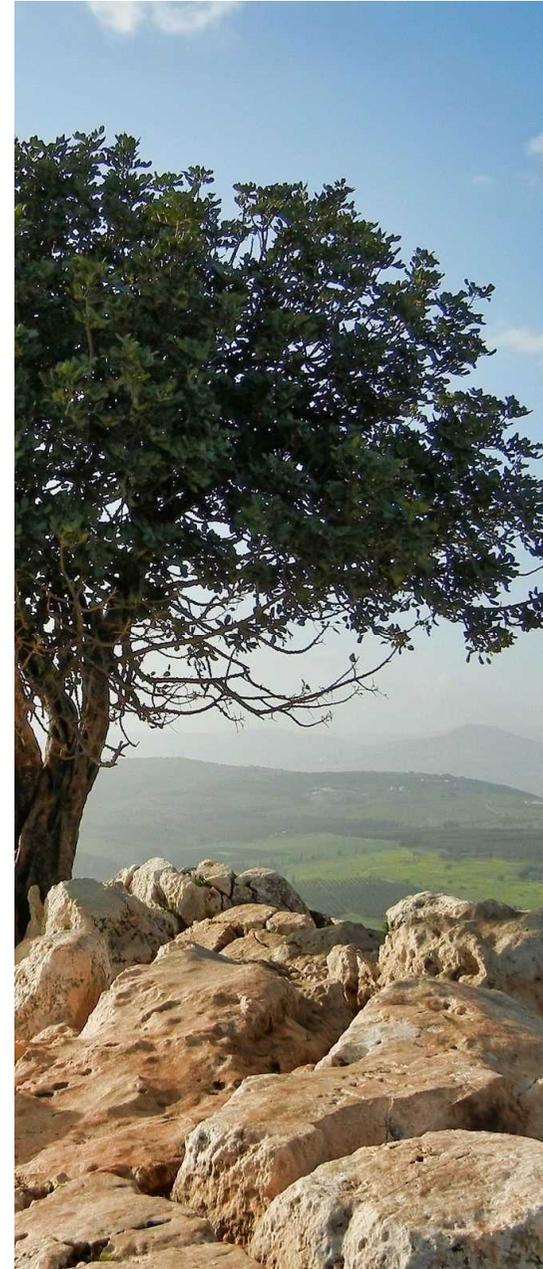
【ドエグの密告】 I サムエル22:9～11

サウルの家来たちのそばに立っていたエドム人ドエグが答えて言った。「私は、エッサイの子が、ノブのアヒトブの子アヒメレクのところに来たのを見ました。

アヒメレクは彼のために【主】に伺って、彼に食糧を与え、ペリシテ人ゴリヤテの剣も与えました。」

王は人を遣わして、祭司アヒトブの子アヒメレクと、彼の父の家の者全員、すなわち、ノブにいる祭司たちを呼び寄せた。彼らはみな、王のところに来た。

■ 奴隷に過ぎないドエグが、機会を捕らえて王に進言。



【サウルの尋問】 I サムエル22:12~13

サウルは言った。「聞け、アヒトブの子よ。」彼は答えた。「はい、王様。ここにおります。」

サウルは彼に言った。「おまえとエッサイの子は、なぜ私に謀反を企てるのか。*おまえは彼にパンと剣を与え、彼のために神に伺い、そうして彼は今日のように私に逆らって待ち伏せしている。」

*サウルの脳内でできあがったストーリー。

■自分に都合良いことを信じるのが、罪人の性質。

➡罪が極まれば、被害妄想に陥る。



【アヒメレクの弁明】 I サムエル22:14~15

アヒメレクは王に答えて言った。「あなたの家来の中に、ダビデほど忠実な者が、だれかいるでしょうか。ダビデは王の婿であり、あなたの護衛兵の長であり、あなたの家で重んじられているではありませんか。

私が彼のために神に伺うのは、今日に始まったことでしょうか。決して、そんなことはありません。王様。このしもべや、父の家の者全員* に汚名を着せないでください。あなたのしもべは、この事件について、いっさい知らないのですから。」

* 嫌疑は、アヒトブの一族全員にかけてされていた。

■ アヒメレクは、事実関係は否定していない。



【死の宣告】 I サムエル22:16~17

王は言った。「アヒメレク、おまえは必ず死ななければならない。おまえも、おまえの父の家の者全員もだ。」

王は、そばに立っていた近衛兵たちに言った。「近寄って、【主】の祭司たちを殺せ。彼らはダビデにくみし、ダビデが逃げているのを知りながら、それを私の耳に入れなかったからだ。」しかし王の家来たちは、【主】の祭司たちに手を下して討ちかかろうとはしなかった。



【惨劇】 I サムエル22:18～19

王はドエグに言った。「おまえが行って祭司たちに討ちかかれ。」そこでエドム人ドエグが行って、祭司たちに討ちかかった。その日彼は、亜麻布のエポデを着ていた人を八十五人殺した。

彼は祭司の町ノブを、男も女も、幼子も乳飲み子も、剣の刃で討った。牛もろばも羊も、剣の刃で。



【エブヤタル】 I サムエル22:20～21

アヒトブの子アヒメレクの息子のエブヤタルという名の人が、一人逃れてダビデのところに逃げて来た。

エブヤタルはダビデに、サウルが【主】の祭司たちを殺したことを告げた。



【ダビデとエブヤタル】 I サムエル22:22~23

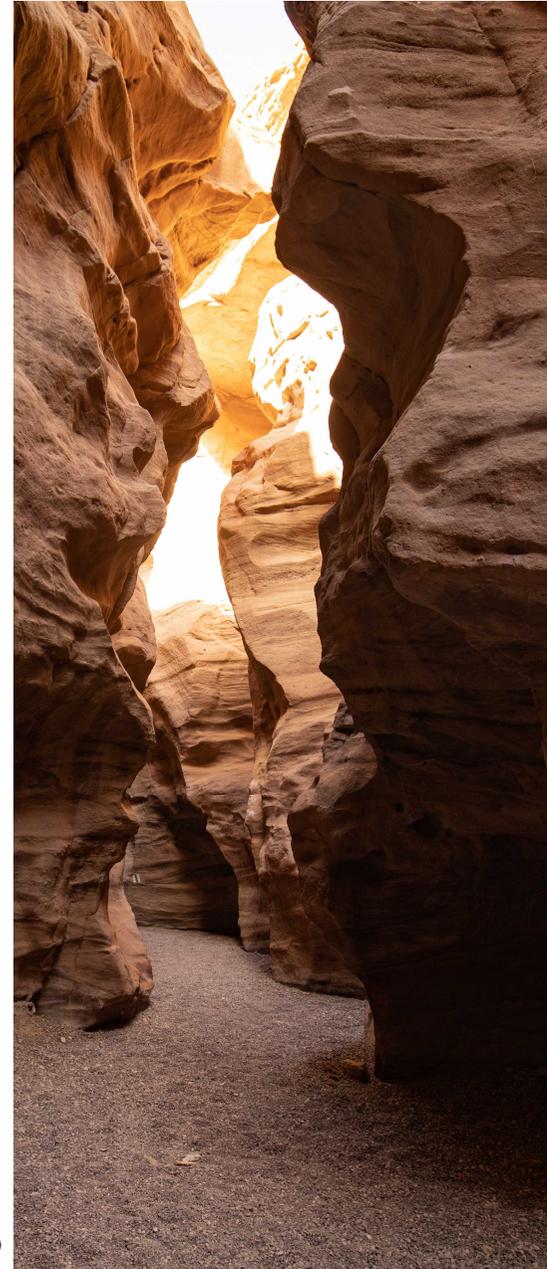
ダビデはエブヤタルに言った。「私はあの日、エドム人ドエグがあそこにいたので、彼がきっとサウルに知らせると思っていた。私が、あなたの父の家の者全員の死を引き起こしたのだ。

私と一緒にいなさい。恐れることはない。私のいのちを狙う者は、あなたのいのちを狙う。しかし私と一緒にいれば、あなたは安全だ。」

■ダビデの嘘は、アヒメレクを巻き込まないため。

一方のアヒメレクは、覚悟して支援したのだろう。

➡主の戦いは、神につくか。敵に付くか。どちらかのみ。



詩篇52篇 ダビデの歌

～ 序 文 ～

指揮者のために。ダビデのマスキール。
エドム人ドエグが サウルのもとに来て、
「ダビデがアヒメレクの家に来た」と告げたときに。



Ⅲ. まとめと適用 信仰の戦いを同労者と共に

ユダの山地・洞窟

【アヒメレクの信仰】

- 主に供えたパンしかない。➡アヒメレクが律法に忠実な祭司の証拠。
アヒメレクの信仰を知っていたからこそ、ダビデも頼ったのだろう。
- ダビデの嘘は、アヒメレクに害を及ばさないための配慮だったろう。
➡状況を察しながら、問わなかったアヒメレク。両者のあうんの呼吸。
- サウル王の前で、アヒメレクは、事実関係は否定しなかった。
➡神の勇士であるダビデのために、主に伺いを立てること、
物的に支援すること。その正しさを訴え、むしろ王を諭した。
- 命がけの訴えに、アヒメレクは祈りと覚悟をもって臨んだだろう。
弟ベニヤミンと父のために、命がけで訴えたユダのように(創45章)

【アヒメレクがダビデに与えた聖別のパンとは？】 レビ記24:8~9

彼は安息日ごとに、これを【主】の前に絶えず整えておく。これはイスラエルの子らによるささげ物であって、永遠の契約である。

これはアロンとその子らのものとなり、彼らはこれを聖なる所で食べる。これは最も聖なるものであり、【主】への食物のささげ物のうちから、永遠の定めにより彼に与えられた割り当てだからである。」

■神とイスラエルとの永遠の契約の象徴が、聖所への供えのパン。

信仰者に与えられた、神の王国の永遠の割り当てを示すもの。

【主イエスが弁護されたアヒメレクの行為】 マタイ12:3~5

しかし、イエスは言われた。「ダビデと供の者たち* が空腹になったときに、ダビデが何をしたか、どのようにして、神の家に入り、祭司以外は自分も供の者たちも食べてはならない、臨在のパンを食べた* か、読んだことがないのですか。（*メシア情報）

また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日を汚しても咎を免れる、ということを経法で読んだことがないのですか。

■安息日の口伝律法に固執する宗教者への主イエスの厳しい批判。

*口伝律法は禁じていたが、律法は祭司だけとは命ぜず、罰則もない。

“安息日は人のためにある” 信仰者への永遠の恵みは妨げられない。

【エリへの預言とアヒメレク】

I サム2:33 わたしは、あなたのために、わたしの祭壇から一人の人を断ち切らないでおく。そのことはあなたの目を衰えさせ、あなたのたましいをやつれさせる。あなたの家に生まれてくる者はみな、人の手によって死ぬ。

* 戦死したピネハスの子イ・カボデ。その孫がアヒメレク。

* アヒメレクの死の背後に、エリの罪の影響。 ➡ 神の預言の成就。

■ 祭司エリの背きにより、系譜が途切れることは預言されていた。

➡ すぐに断たれず、エビヤタルまで続いたのは、主の憐れみ。

■ それ以上のことは、考えても分からない。不条理は、人の罪の本質。

【この世は、不条理の闇のただなかにある】

- 神から離れた人は、霊的に死んでいる。この罪の結果が肉体の死。
神の秩序が失われた世界だからこそ、世には不条理が満ちている。
- この世に生きている以上、誰も不条理からは逃れられない。
神の秩序に生きる信仰者ほど、世の不条理に苦しめられる。
- 聖書に、苦しまなかった聖徒が一人でもいたのだろうか？
聖霊が降った教会時代には、信仰者への不条理はさらに増している。
- 世の終わりに向けて、闇は深まり、混沌は極まり、不条理に不条理が
重ねられていくだろう。主イエスが警告された通りに。

【私たちの希望はどこにあるのか？】

- 不条理はどこまでも不条理。アヒメレクの死に納得行く答えなどない。ダビデに降りかかった不条理も同様だ。
- 結果として言えるのは、苦難なくして、ダビデの詩篇はなかったこと。
- 人の嘆きや思いを越えて、詩篇が究極的に示すのは、救い主・メシア。世は不条理で、人に救いはない。苦難は、メシアに目を向けさせる。
- ダビデは、世の不条理のただ中で、神との信仰の格闘の末に、主が律法を通して約束された究極の救い、メシアと出会わされた。

【苦難の中でダビデが歌った究極の希望に目をとめよう】

■ガテで捕らえられたダビデの歌に示されたメシア預言

34:19 正しい人には苦しみが深い。しかし【主】は そのすべてから救い出してください。

34:20 主は**彼**の骨をことごとく守り その一つさえ折られることはない。

■**メシア、主イエス・キリスト**は、わたしたち人類の罪のために、十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。死に際して、その骨は折られることはなかった。

■苦難の中でダビデに示された、私たちの救い主をこそ、見上げよう。

詩篇34篇 ダビデの歌

ペリシテ人の町ガテで捕らえられたダビデが、
ガテの王(アビメレク)、キシユの前で
頭がおかしくなったかのようにふるまい、
そこを逃れた時に歌った歌。

いにしへの聖徒たちに思いを馳せ、
主の救いの確かさを告げる。

【苦難の中で深まる主イエスの臨在を味わい知ろう】

- 不条理は、どこまで言っても不条理だ。人の欲求は尽きることがない。世に納得いく答えはない。人の期待に応えきることなどできない。どうでもいいことは、どうでもいい。大切なことだけを大切にしよう。
- ただ主を見上げ、主が示される使命に生きよう。ダビデのように、打ち砕かれた心で、主の御顔を仰ぎ見よう。
- 不条理は不条理でしかないが、主に助け求めるなら、主イエスは必ず、ご自身の臨在を、確かにあなたに味わわせてくださる。世がどうであろうと、今、間違いなく、主は私と共にいてくださると。

不条理な世の苦難が指し示す、主イエスだけに信頼しよう!!

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

不条理(ふじょうり)な世(よ)にあつて、わたしたちの希望(きぼう)は、
主イエスだけにあります。

罪(つみ)も死(し)もなく、なんの責(せ)めもない、平安(へいあん)に
満(み)たされた永遠(えいえん)が、約束(やくそく)されています。

主よ。ただあなたに信頼(しんらい)し、主の使命(しめい)にのみ、
今(いま)を生きるものとしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」